



908号
2021年5月25日
郵政産業労働者ユニオン
呉支部発行



←中国地本HPへ
PC・スマホ等から
この情報が閲覧可！



メールはこちら→

コロナ禍渦中の黒字

決算の概要

2021年3月期の決算が発表された。

郵便・物流事業
営業利益は、1,237億円で、前期比237億円の減益。

郵便・物流事業

営業利益は、前期比68億円の減益で、377億円。営業費用である人件費等の経費減少で、黒字確保。

国際物流事業

営業損失が35億円の黒字。

一方、エクスプレス事業売却に伴う減損損失等を特別損失に計上した為、当期純利益は前期比365億円減の876億円と大幅赤字。

日本郵便

営業利益は前期比239億円減の1,550億円。経常利益は189億円減の1,491億円。四半期純損益は337億円減の534億円。

ゆうちょ銀行

業務純益は、前期比149億円増の3,088億円。経常利益は152億円増の3,943億円。当期純利益は前期比67億円増の2,798億円。貯金残高は、189兆5934億円。

金融窓口事業

営業利益は、前期比68億円の減益で、377億円。営業費用である人件費等の経費減少で、黒字確保。

かんぽ生命

基礎利益は前期比213億円増の4,219億円。経常利益は581億円増の3,450億円。当期純利益は154億円増の1,661億円。内部留保額は、2兆5,161億円、健全性の指標であるソルベンシー・マージンは1,121、2%。

新規契約が増えず、保有契約の減少が続く厳しい状況だが、支払い保険金の減少や費用減少で純利益は増加。

営業再開したが、コロナウイルス感染症の影響で訪問営業自体が困難な状況となっている。

22年3月期通期予想

2022年3月期通期の純利益予想は日本郵政200億円、ゆうちょ銀行2,600億円、かんぽ生命1,180億円。

郵政G全体の純利益は予想で、今期比782億円減少と見込んでいます。一方で、株主への配当予想は今期同様50円となっている。

コロナウイルス感染症の影響も続いており、不安要素は例年以上である。

今後の予定

- 6月8日(火) 17:00~
第9回呉支部執行委員会
支部事務所

次号は 6月8日 予定

JP ビジョン2025
郵政Gは、お客さまと地域を支える「共創プラットフォーム」を目指す会社になる事を掲げた。
不適正営業が明るみとなり、制度の改革などの取り組みや検証は今後も必要となる。
ビジョン期間中に収益の大半を占めるゆうちょ銀行とかんぽ生命の持株を50%以下とする事を目指し、新たな収益獲得の為、デジタル強化や不動産投資、新規ビジネスの推進を図る。
業務効率化・生産性の向上を図る為、郵政G全体で約39万人働いているが、約3、5万人の減少を見込んでいます。
採用者数抑制などで自然減を見込むが、専門性のある仕事の為、要員配置だけで解決問題とはならない。